

農山村振興・環境保全対策特別委員会記録

<p>1 会議の日時</p>	<p>令和 7年12月17日</p> <p>開 会 午前10時00分</p> <p>閉 会 午前11時40分</p>	
<p>2 会議の場所</p>	<p>第3委員会室</p>	
<p>3 出席者</p>	<p>委 員</p>	<p>委員長 村下 貴夫 副委員長 田中 勝士</p> <p>委 員 渡辺 嘉山 伊藤 秀光 布俣 正也</p> <p>伊藤 英生 恩田 佳幸 所 竜也</p> <p>小川 祐輝 森 益基</p>
	<p>オブザーバー</p>	<p>無し</p>
	<p>傍聴議員</p>	<p>無し</p>
	<p>執行部</p>	<p>別紙配席図のとおり</p>
<p>4 事務局職員</p>	<p>主査 杉山 俊之 課長補佐 佐藤 由子</p>	

5 会議に付した案件		
件	名	審査の結果
1	<p>地域資源を生かした農山村振興について</p> <p>(1) 流域でつながる里山の有機農業の可能性</p> <p>【参考人】 NPO法人 ゆうきハートネット 代表 佐伯 薫 氏 副理事 伊藤 和徳 氏</p> <p>(2) 地域資源を生かした農山村振興</p> <p>【参考人】 一般社団法人 ぎふの田舎へ行こう推進協議会 事務局長 三島 真 氏</p>	
2	その他	

6 議事録（要点筆記）

○村下貴夫委員長

ただいまから、農山村振興・環境保全対策特別委員会を開催する。

それでは、議題に入る。

初めに、議題1、流域でつながる里山の有機農業の可能性について、参考人として、NPO法人ゆうきハートネット、代表佐伯薫様、副理事伊藤和徳様にお越しいただいている。

大変御多用のところお越しいただき、感謝申し上げます。

活発な意見交換ができればと思うので、よろしく願います。

それでは、佐伯様、伊藤様、御報告をお願いします。

（NPO法人ゆうきハートネット 説明）

○村下貴夫委員長

ただいまの報告に対し、質疑はあるか。

○布俣正也委員

白川町で移住・定住が増えている背景として、半農半Xを提唱している方々が人を呼び込んでいると感じたが、移住者が移住者を呼び込む循環がうまくいっているのが現状か。

○伊藤参考人

ゆうきハートネットだけでなく、移住交流サポートセンターやグリーンツーリズム協議会といった複数の窓口が情報共有しながら、希望者からの相談を受けている効果が出ている。

また、三つの団体全てを、移住者が中心となって運営していることでうまくいっていると思う。

○布俣正也委員

有機農業はハードルが高く、価格も割高のイメージがあったが、近年、身近に感じてきている。

白川町内での有機農業に対するイメージはどうか。

○佐伯参考人

白川町では小さな農業を推奨しながら、消費者と見える関係を作り、その信頼関係の中で有機農産物として流通させている。

また、下流域の消費者に上流域の生産現場を可能な限り見ていただき、一緒に農作業し、現場の苦勞を体験することで、お互いの信頼関係を強めていくことが重要だと考えている。

○恩田佳幸委員

移住者に対して提供された空き家の数と、空き家利用に対する支援策を教えてください。

○伊藤参考人

白川町の空き家バンクや移住交流サポートセンターが、農家向け住宅のマッチングをしており、ゆうきハートネットでは利用された空き家の正確な数は把握していない。

地域によってはすぐに利用できる空き家が少なくなっており、マッチングが難しくなっていると認識している。

空き家の改修や家賃に対しては、白川町から助成がある。

○伊藤英生委員

有機農業にチャレンジしたが、辞められるという方もいるのか。

○伊藤参考人

有機農業に失敗して辞めるという方はいない。

半農半Xで、農業だけでなく、他のなりわいで生計を立てている方が多く、農作物の販売はしなくても自分で食べる分は栽培を続けている方もいる。

○佐伯参考人

就農研修の前に、就農希望者の面接をするなど、スクリーニングをしっかりとやっている。

○森益基委員

地域の営農組合との有機農業の在り方に関する話合いについて、協働のハードルは高いのではないかと推察するが、話合いの中で苦労はあったか。

○佐伯参考人

営農組合は地域の農地を守るため、農地中間管理機構を通じて農地を集積しており、これまで我々はそれ以外の土地を新規就農者に斡旋してきたが、斡旋できる土地がなくなってきている。

今後の新規就農者の土地の確保を考え、新規就農者が使える営農組合の農地はないかという点で話合いを始めた。

営農組合の経営の中に有機部門やトマト部門を作ってもらふことや、重機のオペレーターとして新規就農者に活躍してもらふことが可能かなど、そういった観点から話合いを進めている。

○村下貴夫委員長

質疑も尽きたようなので、議題1流域でつながる里山の有機農業の可能性を終了する。

改めて、佐伯様、伊藤様には感謝申し上げます。

次の準備のため、しばらく休憩とする。

(参考人 退室)

(休憩)

○村下貴夫委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開する。

次に、議題2地域資源を生かした農山村振興について、参考人として、一般社団法人ぎふの田舎へ行こう推進協議会事務局長三島真様にお越しいただいている。

大変御多用のところお越しいただき、感謝申し上げます。

活発な意見交換ができればと思うので、よろしく願います。

それでは、三島様、御報告をお願いします。

(一般社団法人ぎふの田舎へ行こう推進協議会 説明)

○村下貴夫委員長

ただいまの報告に対し、質疑はあるか。

○所竜也委員

農泊参加者は関東圏から来る人が多いのか。

また、インバウンドのニーズはあるか。

○三島参考人

個人的な感覚であるが、愛知県など東海3県からの参加者が多いと思う。

インバウンドの受入れについては、現在は外国語で会話可能な受入先が少ないため、直ちに受け入れることは難しい状況。

今後、G I F U - D O 農泊もインバウンドを視野に入れてやっていきたい。

○布俣正也委員

これからは、体験型のグリーンツーリズムが主になっていくかと思うので、子供たちの将来のためにも、県としても力を入れていく必要がある。

○三島参考人

過去に行政の事業を活用した際、宿泊施設は宿泊料の内訳を求められず、体験型プログラムは詳細な内訳を求められたことがあった。

体験型プログラムは歴史が浅いからなのか、取扱いの違いに疑問を感じるがあった。

○村下貴夫委員長

今の意見について、執行部はいかがか。

○近澤農村振興課長

今後、御相談させていただきながら対応を検討する。

○村下貴夫委員長

質疑も尽きたようなので、議題2 地域資源を生かした農山村振興を終了する。

改めて、三島様には感謝申し上げます。

以上で本日の議題は終了だが、他に意見はあるか。

(意見等なし)

○村下貴夫委員長

意見もないようなので、これをもって、本日の委員会を閉会する。

農山村振興・環境保全対策特別委員会 配席図

令和7年12月17日

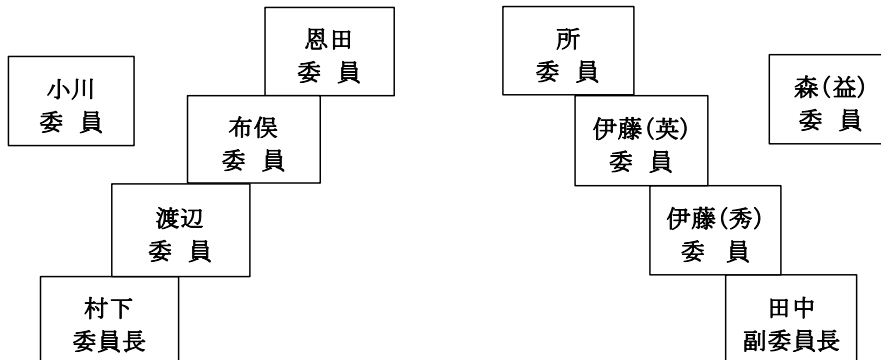
第3委員会室

出入口

		楠田 農村振興課 鳥獣害対策室長	桑畑 畜産振興課 飛騨牛銘柄推進 室長
中原 畜産振興課 食肉流通対策室長	和田 農地整備課長	近澤 農村振興課長	大下 畜産振興課長
長谷川 農業経営課長	佐藤 農政課長	若山 農政部次長	堀 農政部長

石田 家畜防疫対策課 室長 野生のしし対策	桑田 里川・水産振興課 水産振興企画監		
浅井 家畜防疫対策課長	伊藤 課長 里川・水産振興	稲川 農政課 スマート農業推進 室長	工藤 農産園芸課 花き・農業環境 対策監
古田 農政部次長	河尻 農政部次長	後藤 農産物流通課長	田村 農産園芸課長

傍聴席・記者席



参考人

ディスプレイ

議会事務局

出入口